

鼎談 私の視点

～学習基盤としての情報活用能力とメディア・リテラシー

■趣旨説明

次期学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善が求められている。そして、そのための学習基盤として情報活用能力を育む重要性が記されている。関連して、学習指導要領には記載されていないが、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、メディア・リテラシーの育成を欠かすことはできないと考えられる。これらに対してD-projectが行ってきたメディア表現学習に関する実践と研究の蓄積をどのように活かすことができるか、今後どのように発展させていく必要があるか議論する。



■登壇者略歴

福本 徹 (国立教育政策研究所・総括研究官)

キヤノン株式会社にてDTPソフトウェアのプログラミング・開発研究に従事した後、現在、国立教育政策研究所総括研究官、および、国立特別支援教育総合研究所客員研究員。専門分野は、情報教育、教育課程、特別支援教育（病弱、知的障害など）。国立教育政策研究所では、資質・能力育成に関するプロジェクト研究に参画。また、東京都公立小中学校ICT教育環境整備支援事業有識者として、モデル校への指導助言を行う。著書に『資質・能力』（共著、東洋館出版社2016）、『読書教育の方法』（共著、学文社2015）など。

佐藤 幸江 (金沢星稜大学・教授)

横浜市公立小学校において、長く教職に就く。横浜市立高田小学校主幹教諭を最後に現職。現在、金沢星稜大学人間科学部教授。専門分野は、教育学、情報教育。大学では、教科教育を担当。「ますます教師力が問われてくる時代。そういう時代の教育を担う後輩を育てたい」という思いをもち、自治体や地域、学校の研究会等での講演や指導助言を行う。「一般社団法人デジタル表現研究会(通称D-pro)」副会長。著書に『フィンランドの教育～教育システム・教師・学校・授業・メディア教育から読み解く～』北川達夫, 中川一史, 中橋雄 (編著) (2016) フォーラム・A等。

中橋 雄 (武蔵大学・教授)

関西大学大学院にて博士号（情報学）を取得後、福山大学勤務を経て、現在、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授。専門とする研究領域は、メディア・リテラシー論、教育実践研究、教材開発研究など。総務省「フューチャースクール推進事業」文部科学省「学びのイノベーション事業」などで実証校の指導助言を行うなど、教育現場と教育の情報化に関する研究を行ってきた。著書に『メディア・リテラシー論』（単著、北樹出版2014）『メディアプロデュースの世界』（共編著、北樹出版2013）など。